（別紙4）　　　平成　30　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0970101960		
法人名	株式会社うつのみやファミリー		
事業所名	グループホームうつのみやファミリー		
所在地	栃木県　宇都宮市　岩曽町　441－2　　電話番号：028－689－3021		
自己評価作成日	平成31年　1月　7日	評価結果市町村受理日	平成31年　3月26日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県　宇都宮市　大和　2－12－27　小牧ビル3F		
訪問調査日	平成31年　3月14日	評価確定（合意）日	平成31年　3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切に入居者個人に合わせた生活を送っていただいています。
また、入居以前の生活や趣味・趣向、生活歴を大切に、地域との繋がりを持った生活をしていただいております。
岩曽町自治会の一員として役割を担い地域に積極的に貢献しています。
サービスの一環として無償にて通院支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成14年に開設の2階建て2ユニットのグループホームです。倫理綱領を基に支援内容を具現化した6項目の行動指針を作成し、笑顔と丁寧な言葉掛けと昔話を聞くことなども大切にして支援に取組んでいる。施設長は自治会の役員として地区スポーツ大会など行事の運営に参加し交流の輪を広めている。豊郷中学校の体育祭や北高文化祭の招待、吹奏楽の訪問は継続している。クリスマスのバイオリン演奏や大正琴演奏、蕎麦打ちなどのボランティアは定例行事になっている。宇都宮市の社協から地域の福祉協力員の委嘱を受け活動している。近隣農家から季節毎の野菜の差入れを受け、お返しに蕎麦打ちの蕎麦をお裾分けするなど日常の交流が続いている。協力医の月2回訪問診療と歯科医の週1回訪問診療による適切な医療支援は本人、家族の安心に結びついている。地域に溶け込み利用者、家族からの信頼と安心に繋がる支援に取組んでいるグループホームです。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）（1階ユニット）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (1階ユニット) 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との連携、管理者・職員間の理念の共有、また家族との理念の共有を通して実践につなげている。	倫理綱領を基に6項目の行動指針を作成している。毎月のホーム会議で支援の内容を振り返りながら行動目標を隔月毎に決め共有を図り実践に繋げている。笑顔と丁寧な言葉掛けに加え昔話を聞くことなども大切に支援に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一般家庭と同様にご近所付き合いを大切にし、常に交流があるよう心掛けている。 自治会にも加入し地域での役割を担い、協力体制を整えている。	施設長は自治会の役員として地区スポーツ大会など行事の運営に参加し交流の輪を広めている。豊郷中学校体育祭や北高文化祭の招待、吹奏楽部の訪問が続いている。クリスマスのバイオリン演奏、大正琴の演奏や蕎麦打ちなどのボランティアは定例行事になっている。近隣農家から季節毎の野菜の差入れを受け、蕎麦打ちの蕎麦をお裾分けするなど日頃からの交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、認知症ケアに尽力している。 また認知症サポーター養成講座等に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いた家族、包括、民生委員の方のご意見を生かし、運営の役立てている。また、広報誌にて会議の内容の報告を家族に行っている。 また地域交番にも参加要請を行っている。	利用者、家族、民生委員、地域包括が参加し定期開催している。利用者の状況、活動状況など報告の後、委員の参加促進や洪水対策について意見交換など双方向の会議になっている。家族には議事録を隔月の事業所便り「ぐうふぁ」にて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携、また市町村への担当部署へも運営に関しての相談を行っている。	地域包括とは運営推進会議を通して事業所の状況把握と意見交換をしている。また、委託を受け認知症サポーター講座の講師をするなど関係協力を築いている。施設長が宇都宮市の社協から地区の福祉協力員を委嘱され、済生会病院乳児院とクリスマス交流会を計画するなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠の開放を含め、身体拘束のないケアを行うことを職員間で意識徹底している。	全員が自力歩行による日常生活が出来るが、転倒も発生している。安全にも注意し見守りすることで行動の制限をしない支援に取組んでいる。また、玄関に行った時は職員が一緒に散歩するなど支援をしている。職員は研修を通して理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待防止の意識を徹底し、研修等の学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に学ぶ機会を設け、また個々に学習の意識が高まるよう指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	あらゆることに充分な説明を行い、不安や疑問点の問い合わせがし易いようご家族へ申し送っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情報告書の作成、相談箱の設置等ご家族の意見か運営に反映されやすいよう努めている。	利用者、家族が運営推進会議の参加時に聴いたり、家族来訪時や電話する機会に、暮し振りなど伝え積極的に聴くよう心掛けているが、具体的な要望は、ほとんど聞かれない。利用者との会話から甘いものが食べたい、コーヒーが飲みたいなどの希望には対応している。隔月に事業所便り「ぐうふぁ」を発行し送付している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告・連絡を徹底し、職員個々の意見等が反映しやすいよう会議等で積極的に意見を取り入れている。	毎月開催のホーム会議で意見、提案を聴く機会の他、施設長が現場で直接聴くよう心掛けている。事故防止、衛生、健康増進、催事・行事の各委員会での職員の役割と内容を職員中心で決め、自主性を重んじた運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	派遣雇用の採用など人材確保、職場環境の改善に取り組んではいるが、依然厳しい状況。 給与水準の上昇に努め、退職金制度の拡充を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足が非常に大きく積極的な人材育成は行えていないが外部研修の機会があれば施設で費用を負担し受講の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現状では個人単位でしか行えていない。		

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と連携し本人の希望に沿って安心して生活していただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	充分な聞き取りを行い、信頼関係が築けえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	包括、ケアマネと共に充分に検討し、適切な介護サービスが提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族のような関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携を密にして、介護サービスにつなげている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の披露宴やその他の地域、家族の行事に参加できるよう、外出支援を行っている。	利用者との日常の会話から馴染みに関する希望は、ほとんど聞かれない。定期的に行く馴染みの美容院へは送迎の支援をしている。家族来訪時に家族の協力による外出、外食や盆正月に帰宅、泊まる利用者はいる。最近1階と2階の利用者同士が馴染みになり交流するケースがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が交流を持てる機会を提供し、人間関係の円滑に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご様子を伺い施設・医療機関等を訪問している。		

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り希望、意向を把握し、常に本人本位で検討している。	利用者と日常の会話を通して希望、意向の把握に努めると共に、したい事を聴き出すように働きかけている。会話による意思表示が難しい利用者には表情や仕草から把握に努めている。家族の情報からビールの晩酌、栄養補給のミルクや鉢植の花への水やり趣味の塗り絵など支援に取組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	持ち込み等は制限せず、馴染みの暮らし、生活環境を維持出来るよう努めている。またサービス利用の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に情報を共有できる機会を設け、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に利用者本位の計画を立て、充分な情報交換の元介護計画を作成している。	1年毎の定期見直しを基本にしている。目標は長期を1年、短期を半年にしている。毎月のケア会議、支援経過記録、個別サービス実施記録などを基に、半年ごとにモニタリングを行い、現状に即した計画になるように努めている。サービス担当者会議は家族来訪時を基本にしているが、電話や郵送による承認が多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し介護計画の見直しに役立てている。また必要に応じて記録用紙を新たに作成し介護計画に反省させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせターミナルケア等にも対応、体制の強化を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を大切にし、心身の力を発揮して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿い、訪問診療、訪問歯科、また、通院支援を無償にて行っている。	家族が医者の利用者1名は家族の病院で診察を受けている。他17名は月2回の訪問診療のある「協力医」をかかりつけ医にしている。また全利用者が週1回歯科医の訪問診療を受け、口腔ケアの措置と職員も口腔ケアの指導を受けている。他科の受診は事業所の支援もあり、適切な医療支援は家族の安心に結びついている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療に備えた情報提供の書類を作成し、適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の地域連携室と連絡を密にし、退院支援、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りについての事前確認を行い、終末期にも対応出来るよう、体制を整え現在ターミナルケアを行っている。	数年前に本人、家族の要望を受け看取りを経験している。また、昨年も1名の看取りを実施している。ほとんどの利用者、家族から看取りの希望が強く、改めてターミナルケアの実施に向け、主治医の確保、体制の整備に向けた検討を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等を行っているが今後も実践力の向上に向けて努力が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に対応出来るよう定期的に災害時の対応を確認している。	5月に中央消防署の査察を受けたが指摘はなく、7月は日中想定、10月には夜間想定で、ともに消防署立会で総合訓練を実施している。7月は消火器使用について、10月には1階はベランダに避難、2階は滑り台使用のアドバイスを受けている。	職員の滑り台使用に関する習熟度の確認と煙対応を含め、2階からの避難誘導の対応について検討を行い、安全な避難に繋げる取組みに期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに充分に配慮し、丁寧な言葉掛けを心掛けている。	父母、祖父母との年齢差でもあり人生の先輩として敬い、丁寧で判り易い言葉を、笑顔で話掛ける事に心掛け、不用意な言葉遣いには皆で注意し合っている。若い時の話、仕事の話など昔の話を聞くようにも心掛けている。排泄の失敗時などは、他の利用者に気付かれないようプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の対応を周知している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に合わせたペースで生活していただき、利用者本位でケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容、また訪問にてカラーリング等のサービスも導入し、理容室、美容室へ通う支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在材料の買い出しは行っていないが誕生日のお好みのメニューを提供するなど工夫している。 また食事の準備や片付けを共に行っている。	朝、夕はご飯と汁物を作り、副食は湯煎を採用している。昼食は、業者から調達の食材に加え、菜園と近隣農家から差入の季節毎の食材を使用し職員が調理している。おせち、七草粥、恵方巻、しもつかれなど行事や季節食や蕎麦打ち、外でのバーベキューでも食事を楽しんでいる。職員も同じものを一緒に食べている。野菜の下拵え、食器拭きなど利用者の能力が発揮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や栄養バランス、摂取量を観察し一人ひとりに合わせた支援ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態や個々の力に合わせ、訪問歯科の指導の元、訪問歯科と連携し口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を充分に把握し、個々に合わせたケアを行っている。	現在5名が自立排泄している。他は時間誘導と意志表示で誘導によるトイレ排泄支援をしている。夜間はセンサーを使用し睡眠を優先にしているが、自立排泄以外にも、自発的に起きてきた利用者にはトイレ誘導をしており、ポータブル利用者も3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	連携医師の指導や提供する食べ物を工夫し便秘の予防に努め、排便パターンを把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴の希望、回数、時間帯に入浴し入浴の仕方も個々に合わせて支援している。	入浴は週2回の午後を基本にしているが、毎日入浴が1名、好みの温度での入浴が1名など希望を尊重した支援をしている。現在入浴を嫌がる利用者はいない。ほとんどの利用者に洗髪、背中など洗う介助支援をしている。柚子湯、菖蒲湯の季節感や入浴剤での温泉浴などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて休息、睡眠を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に服薬の情報を載せ、服薬支援と情報を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし役割を持って生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援を積極的に行い、出来る限る充実した生活を送って頂けるよう支援している。	日々の散歩が少なくなっていることを課題にしている。初詣、だるま市、孝子桜、紅葉狩りなど年間計画の外出、外食は、職員と一緒に楽しい一時を過ごしている。希望に応じて近くのコンビニで、おやつなどの買物では、店員と顔見知りになり扉を開けてくれる。家族の協力で外出、外食、外泊する利用者の支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価 （1階ユニット）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望に合わせ、ご家族との話し合いの元、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度な装飾を廃し、一般家庭の雰囲気と生花を飾ることにこだわり工夫している。	リビング・ダイニングには、近くの生花店と契約し定期的に季節の花を、またテーブルには、職員が持参した季節の花を飾るなど家庭的雰囲気を取入れている。家族から寄贈の雛人形や近隣農家から頂いた竹で七夕、クリスマスツリーなど利用者の意見を聞きながら飾りつけをしている。トイレ掃除は、時間を決めて昼間3回、夜間2回、階段の手摺りと床掃除、消毒は毎日実施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居心地の良い場所になるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と本人の希望に合わせ自由に好みの物等を持ってきていただき、居心地の良い空間となるよう支援している。	全室洋間で縦型の物入が設置され、窓側に洗面台の取り付けられた50cm幅の棚が、取付られ小物置などに使用している。ベット、寝具など必要なものは持込を基本にしている。家族の写真、習字など飾っている他、小さな仏壇、テレビを持込むなど思い思いに生活空間を演出している。毎日職員と共に掃除を、また、月１回エアコン掃除も含め大掃除する日を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭の雰囲気を大切に個々の力を活かせるよう工夫している。		